

第 102 回奈良県河川整備委員会 議事概要

日時：令和 4 年 12 月 19 日（月）14 時 00 分～16 時 00 分

場所：ホテルリガーレ春日野 吉野の間

出席者：

【委員】川池委員（委員長）、岡崎委員、久保田委員、倉橋委員、小林委員、庄田委員、館野委員、堀野委員

【事務局】奈良県県土マネジメント部河川整備課

議事：

- (1) 第 101 回奈良県河川整備委員会の議事概要及びご意見への回答について
- (2) 大和川水系（生駒いかるが圏域）における事業再評価について
- (3) 令和 5 年度大和川水系（平城圏域）環境モニタリング調査計画について

その他：

- (1) 今後の予定について

（1）第 101 回奈良県河川整備委員会の議事概要及びご意見への回答について

○館野委員 三代川の景観に配慮した護岸の設計について、石積みのように見えるのか。

→若干の凹凸はあるが、本当の石積みとは見た目は異なる。

○館野委員 そういうものがあるかどうかは、いろいろ意見があると思う。普通の護岸で良いのではと考える方もいると思う。

○川池委員長 改修により現況堤防の高さに対して水位がどれくらい下がり、越水が解消するといった情報があつたほうが、治水安全度の向上が視覚的に分かりやすくなる。時間がかかることなので、今年度、来年度に変えるということではなく、時間をかけて検討していただきたい。

→どのような形で表現できるか、検討する。

○川池委員長 第 101 回奈良県河川整備委員会の議事概要を確定する。

（2）大和川水系（生駒いかるが圏域）における事業再評価について

【富雄川】

○館野委員 安堵工区について下流から順次工事を進めているが、浸水被害が報告されている高安住宅地周辺まで改修するには時間を要するため、先行的に改修が可能か検討し、着手をめざすということだが、直近 5 年で初めて検討が必要となったのか。

→検討は継続的に進めてきた。ただ、改修時に井堰の統廃合等が必要となるため、井堰管理者である水利組合と協議しているが、まだ成果として説明できることはないため、継続して今後も検討を進めたいという意見である。

○川池委員長 高安住宅地周辺の改修を先行すると、下流の未改修区間を飛び越して治水安全度を上げるということになるが、こういった手法が考えられるか。

→対象区間の中にある業平橋は古く、橋脚や橋台が河積を阻害している。それを今の基準に合った形で改築することにより、河積の阻害を小さくすることも手法の一つと考えている。

○堀野委員 浸水シミュレーションの令和 4 年度時点の安堵工区の破堤地点は、流域全体で被害が最大となる地点か、もしくは安堵工区内だけで被害が最大となる地点か。

→安堵工区内で被害が最大となる地点である。

○川池委員長 審議の結果、事業継続が妥当と判断する。

【三代川】

○久保田委員 三代川のような排水しにくい河川を整備する場合、川幅を広げるだけでは対応しきれないのではないか。富雄川や大和川に、三代川の水を排水できるようにする整備は考えられないのか。

→他の河川に排水するための放水路の整備は河川改修と並ぶ一つの選択肢ではあるが、今までそこに降っていた雨を放水路で別の川に流すことで流域が変わってしまうため、合意が得られない。例えば上流に遊水地を整備して河川改修とセットで考えることも一案であると考えている。

○堀野委員 他の河川は確率規模 1/10（10 年に 1 回程度の降雨による洪水規模）等で改修しているのに、三代川を確率規模 1/3 で改修することに意味があるのか。また、富雄川の下流周辺なので、流域変更も実現可能ではないのか。

→三代川の現況流下能力は確率規模 1/1 程度であり、確率規模 1/3 で整備することにより、過去の水害の 7～8 割ぐらいは解消できるのではないかと考えている。また、富雄川への流域変更で、国との協議を進めた時期もあったが、かなりハードルが高く、調わなかったのが現状である。ただ、流域変更がかなわないのであれば、先に述べた遊水地も有効な方法の一例であると考えている。

○堀野委員 確率規模 1/3 での用地買収も進んでいるのでこのまま改修を進めるとともに、困難であることは理解しているが、降雨が激甚化している気候変動の時代なので遊水地だけでなく流域変更にも再度チャレンジするべきだと思う。

→契機を見ながら、改めて流域変更の協議を国としていきたい。

○岡崎委員 同様のことを考えていた。JR 橋があることから改修には時間がかかり、改修の進捗が遅くなると、住民の方々が被害を受ける期間が長くなるので、現計画を継続していくなかで、次にどうしていくかを考えていただきたい。

→承知した。

○川池委員長 気候変動による流量の変化ということで、流域治水として流域全体であらゆる方策を考えて豪雨に対応していこうという全国的な流れを、国土交通省大和川河川事務所はアピールしている。大和川流域として、国の取組も含めてこれだけのことをやっているといった情報を本委員会にも出していくとよいと思う。

→承知した。

○川池委員長 審議の結果、事業継続が妥当と判断する。ただし、次回の再評価までの申し送り事項として、流域変更や遊水地の設置を含めた代替案の検討を実施していただきたい。

【竜田川】

○川池委員長 残事業の費用便益比が 1.1 と小さいことを事務局はどのように解釈しているか。

→竜田川は掘込河川ということもあって、被害が築堤河川より少なく整備効果が出にくいという現実がある。あくまでも整備計画は、浸水が発生しないように必要な整備区間や必要な期間を定めた計画であるので、残事業の費用便益比が小さいからといって事業をやめることは考えていない。引き続き事業は継続していきたいと考えている。

○小林委員 委員会資料を HP に掲載する場合、説明なしで浸水シミュレーションの資料を見ても内容が理解できないと思う。

→注釈を入れる等して、資料のみでも内容が理解できるようにする。

○堀野委員 菜畑工区内に井堰は何基あるか。どれくらい対応しなければならないか把握したい。

→確認する。

○川池委員長 審議の結果、事業継続が妥当と判断する。

(3) 令和 5 年度大和川水系（平城圏域）環境モニタリング調査計画について

○岡崎委員 今回調査が従来より早い時期に実施できるようになるというのは、調査回数は同じで、従来より、より早い時期のデータを取り、今後その時期の調査を続けていくということか。

→そのとおり。

○岡崎委員 事前事後といっても調査時期が違えば全く違うデータが得られることになるので、そのあたりを考慮しながら進めてください。

○久保田委員 環境は 1 年、2 年で回復するということがあまりない。そのため工事が終わったから調査は終わりというわけではなく、工事が終わってから 5 年、10 年たってどうなっているかということが大事である。

○岡崎委員 工事の環境への影響は長い期間に及ぶため、工事直後に魚類や鳥類が減少しても、5 年後、10 年後には増加することもある。このように、結果的にある工法が環境に対する影響の負荷が少なかった、あるいは多かった等の評価を行うためには 10 年に 1 回でも終わったところに対する情報はとっていただきたい。

→検討する。

○倉橋委員　　周辺の住民の方や、例えば、法隆寺の観光客の方等に河川に対する印象について意見を収集しているのか。もししていないのならば、何年かに 1 回でもよいので聞けたらよいと思う。

→年 2 回当課で発行している「大和川ジャーナル」という大和川流域に特化した冊子の中で、次号では、河川について知っていただくことを目的に、川の環境や生物について掲載する予定である。また、河川についてどう思うか等、県のウェブアンケート等を利用できないか考えている。地域活動で河川に関わっていただいている方々の声も聞けないか検討中である。